



全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Act(改善)の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



## 鳥取県 JA鳥取西部

### 特産園芸品目の生産拡大へ一層の挑戦

P



JA白ネギ共同選果場では、昨年から冬にかけて白ネギ出荷のための選果箱詰め作業が進められた。

JA鳥取西部では、自己改革実践のため、3つの方針を定めています。

1つ目の方針は、農業者の所得増大・園芸生産の拡大です。

とりわけ特産園芸品目である白ネギの単位収量向上により売上増加に取り組んでいます。また、新

たな園芸品目の産地育成を図るため、野菜広域センターを活用し、「大山ブロッコリー」の1戸あたりの面積拡大を目標としています。

2つ目の方針は、農業振興の応援団、JAファンづくりを通じた地域の活性化です。3つ目の方針は、経営基盤の確立・強化です。

#### 所得増大につながる目標

白ネギの売り上げ増加  
による作付面積の拡大

253ha → 270ha

21年度(実績)

23年度(目標)

ブロッコリー1戸当たり  
作付面積の拡大

2.35ha → 2.5ha

21年度実績

23年度目標

D

白ネギやブロッコリーなどの園芸品目の生産拡大に向けては、スマート農業の推進を通じて省力化や効率化もすすめています。

ドローンによる薬剤散布の防除実演会、ラジコン草刈り機や大型農機などの「ICT農機と野菜作機械の実演会」を開催し、組合員の労力軽減や生産拡大に実証効果を示しています。

C

組合員・JA間の情報伝達の迅速化などを目的にLINEを開設。担い手との接点づくりをすすめるため、JA担当者のスマートフォンにLINEワークスを導入し、ニーズや意見を丁寧かつスムーズに把握することを目指しています。

またJAの公式HPにおいても、「JA鳥取西部 自己改革のご意見募集フォーム」を設け、広く意見を募集しています。

A

改革の評価把握のため正組合員との対話や集落座談会の実施に加え、地域に根差したJAを目指して組合員の評価を踏まえながら必要な見直しを行います。また、「農業や地域の発展を共に支えるパートナー」である准組合員の声を聴くようにします。

